1　チーム名（研究対象領域・教科） 高等部職業科	
2　メンバー	高等部教員６名

3　チームのテーマ

自分で考え、自分で解決する職業科の授業づくり　　～キャリアノートを使って～

4　対象児童生徒に願う主体的な姿

・自分の事や周りとの関係を理解し、主体的に討論する生徒。

・自分の課題や将来について考え、自ら考え、自ら改善しようとする生徒。

・「働くこと」に対する高い意識を持ち、希望する進路実現に向けて日々の学習に意欲的に取り組むことができる生徒

5　研究仮説

・キャリアノートを使って自分の事や周りとの関係性を３年間通して学習していくことで、自分の進路について自分なりの考えを持ち、普段の生活から意識することができるのではないか。

・高等部一人一人の生徒の自己理解と他者理解。そして職業理解を促し、自分が目指す仕事に就くためにはどんな力が必要なのか、その力を養うためには生活の中でどんなことをすればいいのか。それらの事を目に見える形でまとめ、そのノートに基づいて日頃の学習を積み上げていく。そして次の学年に行く際に、ノートと一緒に持ち上がり、自分のやってきたことを振り返りながらこれからの自分について組み立てていけば、自分の将来について確実に力を積み上げていけるのではないかと考えた。生徒が自分の将来を主体的に考え、必要な力を身に付けさせるためには、今までの職業指導内容・方法の改善、手立てとなるものの存在が必要であり、他県で実施している小、中、高が一貫して取り組む「キャリアノート」を参考にして、自校実践の改善につなげていく取り組みは、課題を解決する有効な方法の一つと考えた。

～キャリアノートとは～

・その時の自分自身の考えていることや思っていること学んだことや自分の成長を記録し、自分を見つめることで、将来の夢や目標を見つけてそれを叶えるための計画を立て、それに向かって進んでいくことを目指している。

・生徒の発達の段階を踏まえながら系統的・継続的に活用することによって、社会的・職業的自立の基盤となる能力や態度の育成の一助となるノートにする。

6　研究実践の内容

①　生徒の現状の把握

高等部２年（今年４月）

知的の特別支援学校の高等部２年男子５名、女子４名、計９名。

全員が中学校通常学級や特別支援学級からの入学生で、知的障がいの程度が比較的軽く、将来自立した職業生活を営むことを目指している。しかし現実は、教師や保護者の「働くことは大変なこと、でも一般就労させたい」という思いとは対照的に、生徒自身は努力をすれば十分に働けるほどの力を持っていても、卒業したら働くという意識に欠けている生徒が多い。そもそも、自分はどんな人間で、どんなことができてどんなことができないのか、仕事の種類はどのようなものがあるのか、働くために必要なことは何なのか…など何もわかっていない状態で入学してきて、最近になり自分自身について考えることが少しずつできるようになってきた。また、職業や作業等の授業、産業現場等における実習を通して少しずつ働くことについても考えることができるようになってきた。しかし、２年生になった今でも、「優しい人たちの中で優しく生きていきたい。」「将来はダンサーか歌のお兄さんになりたい。」と現実を受け入れることのできない生徒がいる。また、卒業後に仕事をする気持ちはあっても、そのために必要な力はまだ備わっていない。また、保護者も卒業後は仕事してほしいと望むばかりで実際には本人と向き合わず、本人がどんな考えを持ち、どんな仕事が向いているのかを共に考えることは少ない。

②　会津養護学校キャリアノート「未来へのかけ橋」作成

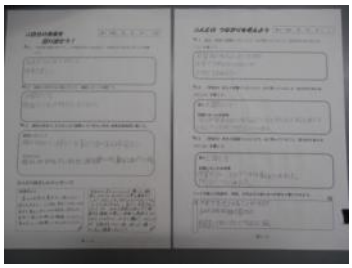
他県の「キャリアノート」を参考にしながら、自校の高等部で３年間継続して活用することのできる

キャリアノート『未来へのかけ橋』を作成した。特別支援学校のキャリアノートは他県にも存在しておらず、通常の高校生が使用しているキャリアノートは、内容が難しいため、いくつかの県の小、中、高のキャリアノートの内容を参考にしながら作成した。また、同じ高等部の生徒でも知的障がいの程度によって内容理解に差があるため、通常バージョンと優しいバージョンの二種類を作成した。

（1）他県のキャリアノートモデルをアレンジしたキャリアノート「未来へのかけ橋」を作成
・学習資料等の関連資料も合わせて１冊のファイルとして蓄積させ、上級学級へ持ち上がらせる。
・自分自身の成長を振り返り、将来の夢の実現に向けて自ら目標を設定し、実践するためのツールとして３年間継続して使用する。

（2）「未来へはばたく力」を、以下の５点に整理
1　自己（自分）を見つめる力
2　つながる力
3　動く力・生かす力
4　創り出す力
5　自分自身を大切に思う気持ち

（3）以下の５項目について、学年ごとにまとめていく。同じ項目でも、学年に応じて内容が少しずつ変わっていく。
1　今と将来の自分を見つめよう！
2　人とのつながりを考えよう！
3　自分の行動を将来に生かしていこう！
4　自分の未来を創り出そう！
5　１年間の振り返り



③　実践の様子
今年の５月から、キャリアノート『未来へのかけ橋』を比較的知的障がいの軽い一般就労を目指す生徒のいる１学年１クラス、２学年２クラス、３学年１クラスで取り組んでいる。
実際に活用してみると、語句が難しかったり、内容が不十分だったりと改善が必要だが、自分自身について考え整理したり、将来の夢や目標を考え、その目標を達成するためにどんな取り組みが必要なのかを考えたりすることができている。また、常に手元にあることでいつでも振り返り、自分の成長を感じることにつながっていると感じる。私のクラスに関しては２年生からの取り組みだったので、1年生のページは思い出して書いた。ある生徒の将来の夢は、1年生の時は「分からない」と書いたが、2年生のページには「自分のペースでゆっくりとやれる仕事」「あまり人と話さずに、黙々とやれる仕事」と書いていた。そう考えた理由は、職場実習を通して自分はあまり話すことが得意ではないと知ったからと書いていた。しかし、働くために必要なことは何かを問われるページでは「コミュニケーション」と書き、話すことは苦手だけれど、どんな職場でも話すことは必要なので、学校生活の中で「自分から積極的に話したり、報告・連絡・相談ができるようにしたい。」と書き、実際にキャリアノートに書いたことを意識して生活する様子が見られる。

7　まとめ
キャリアノートの活用を通じて、生徒一人一人が生涯を見据え、学ぶことや働くこと、生きることの尊さを考え、志をもって自らの未来を切り拓く力を身に付けてほしいと考えている。外の中学校から入学してくる生徒も多いので、将来的には、小学校や中学校の特別支援学級の先生方と連携して同じものを活用し、生徒一人一人の夢の実現の手助けがスムーズに行えるようにしたい。
進路決定までのプロセスにおいて、生徒の能力や生活環境等を十分に把握し、夢や願いを尊重して、その実現に向けた目標や学習活動の設定が必要であるとともに、そうした取り組みを進めるためには、生徒一人一人の働く意欲やジョブスキルを向上させるだけではなく、学校全体で就労に向けた取り組みを進めていく環境づくりを進めることができるよう、教員の意識の高揚が不可欠であると考える。生徒が自信を持ち、高等部卒業後の生活を積極的に考え、生き生きと生活できるようになることを目指す。そのためにも、キャリアノートの内容検討、精選を繰り返し、会津養護学校キャリアノート「未来へのかけ橋」を完成させ、一人一人の願いに沿ったキャリア発達を支援しながら、生徒全員の適正な進路実現を目指していきたい。